

平成27年度 新潟市若年者自立支援ネットワーク会議 会議録（概要）

■ 開催日時：平成28年3月29日（火）午後3時～4時45分

■ 開催場所：新潟市役所本館3階 対策室2

■ 出席者：

【委員】大竹真理子委員、宮島裕司委員、福島昇委員、外山孝幸委員、
久住寿代委員（代理：佐藤勇太郎）、西條秀俊委員、田中健委員、
枝並素子委員、関和幸委員（代理：成澤康仁）、
火宮麻衣子委員（代理：高橋知浩）、小沢謙一委員、堀内一恵委員
（欠席委員：真柄渉委員、佐藤佐智夫委員、和田早苗委員）

【事務局】新潟地域若者サポートステーション 総括コーディネーター 目黒雄介
新潟地域若者サポートステーション 佐藤純子
雇用政策課 高野課長、和田主幹、富井副主査、池田主事

■ 会議概要：

1. 開会挨拶（高野雇用政策課長）

2. 委員紹介、会長・副会長の選任（会長に西條委員、副会長に福島委員を選出）

3. 報告事項

（1）現下の雇用情勢等について（新潟公共職業安定所 成澤様 説明：資料有）
質疑応答（なし）

（2）平成28年度若年者就労支援について（事務局 富井副主査説明：資料1）
質疑応答（なし）

（3）新潟地域若者サポートステーション活動状況、事業実績、平成28年度事業計画に
ついて（事務局 目黒総括説明：資料2）

質疑応答

（外山委員）

資料P1、2(1)について、生活保護世帯の利用者が目立ってきたとあるが、福祉事務所からの紹介が多いのか。もう少し詳しくお聞きしたい。

（目黒総括）

保護課からの紹介が多い。働ける力があるからサポステへリファーされる。他の方と比べると支援の進捗が遅い。就職となると本人が望むような求人がない。

（堀内委員）

資料P2、2(3)チャレンジ体験の要件が高すぎるというのは。

（目黒総括）

週20～40時間、1日4時間が毎日で3～4週間となるときついというものもあるし、チャ

レンジ体験は収入が無い。そうであれば就職した方が良いとなるため。

(堀内委員)

資料 P2、2(4) ホームページを刷新して、サポステでの支援では難しい方からの問い合わせが増えているとのことだが、どんな方からが多いのか。

(目黒統括)

精神疾患の方からの電話が多い。こあサポートや医療機関へリファー。問い合わせは本人からが多い。

(福島副会長)

資料 P3 事業実施状況の利用実人数の増減について

(目黒統括)

実人数はそれほど変動していない。延べ人数が減っているのは平成 26 年度から居場所事業が終了したため。セミナーや相談に来られる方の人数は減っていない。

(西條会長)

平成 28 年度、国の評価が A ランクになったが、どこが評価されたのか。

(目黒総括)

理由は把握していない。厚生労働省から聞いたわけではないが、地方公共団体の支援がしっかりしていると評価が高くなる傾向がある。

(西條会長)

新規登録の入口の内訳例えばハローワークからのリファーが多いとか、内訳が分れば教えて欲しい。また、本日出席の機関などへ協力依頼出来ることが教えて欲しい。

(目黒総括)

ホームページを見た、保護者の方から教えてもらって来たという割合は増えている。

関係機関の方々には引き続きご協力いただきたい。サポステが就労支援に特化し、受入企業と話す機会が増え、例えば、あいさつが出来ない、仕事のスピードが遅い、他の人の様子を見て覚えることができないなど、厳しいことを言われることがあり、就職の受入に慎重な部分があると感じる。

(高野課長)

補足として、国へ実施計画を提出する時、就職決定実績 110 人以上で B ランクのところ、実績が 113 人。地方公共団体からサポステ事業への支援があり、体制が強化されることにより 1 等級高い目標を達成できる見込みがある場合は、ランクを引き上げることができ、平成 28 年度は A ランクとなり、予算 350 万円増加計上されている。

(堀内委員)

サポステを利用して就労に繋がった方へのその後の対応は何かしているか。

(目黒統括)

定着ステップアップ事業を実施。内容は定期的に電話連絡、月 1 回土曜日にハローワークで相談。日曜日夜に、しゃべり場やセミナーを設け、現状報告やお互いの悩みなどを聞くことで、ステップアップや職場定着支援を実施している。

(堀内委員)

資料 P11(4) 就労から遠い人の受入について、今後の課題だと思う。私自身、企業向けのコンサルをしている。心細い思いをして就職する人もいる。事業所の方へ受入についてア

ドバイスしている。事業所にちょっとした配慮があれば続くと感じている。

(目黒総括)

ジョブトレ受入先にそのまま就労する場合、事業主の方も不安があるので、サポステが入って三者面談的な相談をしている。そうでない方にはアプローチが難しい、何らかの支援が出来るか考えていきたい。

4. 意見交換

○にいがた若者自立応援ネットの取り組みについて (枝並委員 資料有)

平成 27 年度、にいがた若者自立応援ネットに市教育相談センター及び市発達障がい支援センター J O I N の 2 つが追加され、5 者連携となった。

学校在籍者や休学者の就労支援が出来なくなり、繋げることが困難となった。在学中からの自立応援ネットを通じての顔見知りの関係、信頼感を築き、密接な支援や繋がりが難しくなった。どのように繋がっていけばいいのか。

(宮島委員)

サポステへの出張相談を行っている。発達障がいの方が多い。診断を受けてない方の利用も多い。

(堀内委員)

利用者の希望を受け止めてあげて、伴走舎など書いていない支援機関も活用すると、グレーゾーンの方などの相談に対応できるのでは。

(目黒総括)

以前は学校連携を行っていた。平成 26 年度から就労に特化した支援となった。現在は明鏡高校の卒業年次生へミニジョブトレを実施。自立応援ネットの枠組みの中で出来ることはしていきたい。

(枝並委員)

関係機関と良い連携が出来ればと考えている。

○新潟市こころの健康センター平成 28 年度事業計画について (福島副会長 資料有)

若者に関連する事業として、自殺対策協議会作業部会・自殺予防ゲートキーパー養成研修会を実施予定。養成研修については、県立大と連携して、若者を支えていければというもの。学生同士のコミュニケーションの大事さ、お互いが相談でき、相談しあえる関係を築くもの。

○その他

(宮島委員 資料有)

J O I N の紹介について。高校生、大学生年代の相談が増えていることを実感している。就労前の入口の自己理解、受診前の心のケアを行っている。その後は関係機関へリファーさせていただいている。

(西條会長 資料有)

新潟大学キャリアセンターで配布した就職・採用活動についてのお願い文書について。

採用選考活動開始の6月は授業期間中でもあり、学業との両立、企業への配慮を求めた文書を作成。土日や平日夕方の活用、オワハラといった行為は慎む事などを明記。2年連続就職活動時期の変更。変更の流れに乗れない学生もいた。未就職のまま、卒業した学生もいる。平成27年度内定辞退が多かった。学生も企業も混乱していると聞いている。

(大竹委員)

小中学校などを回って地域の子どもの様子を聞いたり、気になる家庭の状況を伝えたりする市民指導委員がいる。その活動の中で気になるところがあるのでお伝えしたい。

進路指導の時に、高校進学時にみんなが行くから高校進学して大丈夫なのかなと心配になる。家庭で親が放任して、そのままひきこもりになっていくのが心配。卒業時に何がしたいのか、どういう生活を希望しているのかをちゃんと聞いて欲しい。どうして高校に入れるのか。早い時点でオールなどに繋がれば子どもの生活が安心できるのでは、それも一つの方法ではないか思っている。

(田中委員)

連携と言うキーワードは必要。働くところに送り出す学校への責務もある。時間が教員を焦らす。教員は3年間スパンで物事を完結する。3年間スパンで消化できない子が出てくる。その3年にのれないまま社会に出て、ひきこもりになる。保護者は原因を求めたがる。学校と教育委員会の不手際を上げて、原因を探る負の循環がある。中学校と高校の連携も重要。進路先を自分でしっかり決めることが大事。このような会議で連携が取れることもよい。

(枝並委員)

高校中退学時、オールを紹介してもらっている。中学3年生中盤あたりに新潟市にこういう施設があるよとパンフレットを配布している。そういう時期でないと紹介が出来るチャンスがなく、パンフレットを全員に配っているが、いざ必要となった時にオールを思い出してもらえているのか。

(西條会長)

学校の中でも支援は充実しているが、1人1人、個別に届いているのか。大学卒業しても、就職が決まらない、就職してもすぐやめてしまう学生もいるので、ネットワーク機関でその後どんな対応が出来るのかというのが大事なのかなと感じる。

5. その他（事務局）

委員の任期は平成29年3月末まで。4月に入ったら委員の異動の確認を行う。異動による後任については、女性委員の選任にご配慮いただきたい。